

# 万葉集と現代の私たち

～防人歌をよむ～

活用資料：

『元暦校本万葉集』（東京国立博物館所蔵）「ColBase」収録

<https://jpsearch.go.jp/item/cobas-57569>

([https://colbase.nich.go.jp/collection\\_items/tnm/B-2530?locale=ja](https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/B-2530?locale=ja))

清水浜臣『万葉集[5]』（国立国会図書館デジタルコレクション）

<https://jpsearch.go.jp/item/dignl-2551522>

(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2551522>)



# 授業の内容

- 『万葉集』の写本に触れ、その内容をよむ
- 現代の私たちとの共通点を探す
- 防人歌をよむ

～ねらい～

- 『万葉集』の特徴について理解する
- 写本に触れることで古文や古文研究に興味をもってもらう
- 現代の私たちにも通じる部分を知り、古文に親しむ

万葉集について  
知っていることは  
何だろうか？



『元暦校本万葉集』（東京国立博物館所蔵）「ColBase」収録  
(<https://jpsearch.go.jp/item/cobas-57569>)

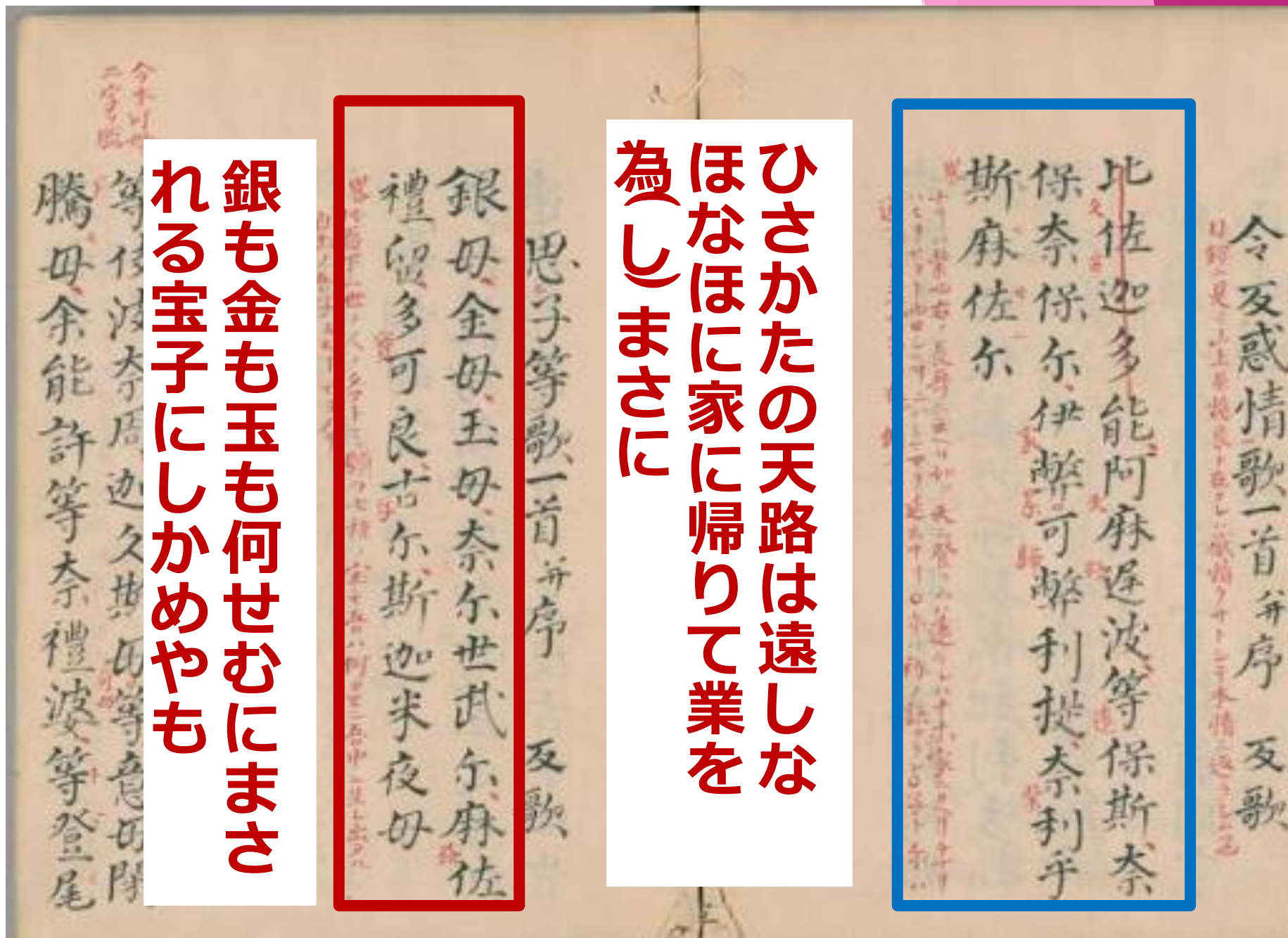
# ・万葉集はいつ作られた？

- ▶ 正確には分かっていない
- ▶ 八世紀後半に作られた
- ▶ 今から約1200年前

# • では、万葉集の中の歌の内容は？

- 銀(しろかね)も 金(くがね)も玉も何せむに まされる宝子にしかめやも
- 憶良らは今は罷らむ子泣くらむそれその母も我を待つらむぞ  
山上憶良
- 田子の浦に うち出でて見れば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ  
山部赤人
- あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る  
額田王

• 実際に見てみよう



# 防人歌とは？

防人...「古代，北九州防衛のために配置された兵士(ひょうじ)。」

コトバンク『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』

<https://kotobank.jp/word/%E9%98%B2%E4%BA%BA-68646>

- ・万葉集には遠くの地へ向かう東国の防人たちの和歌が残されている。

# 防人歌をよむ

- ・ 父母が 頭(かしら)かきなで 幸(さ)くあれて  
言ひし言葉ぜ 忘れかねつる
- ・ 韓衣(からころも) 裾に取り付き 泣く子らを  
置きてぞ来ぬや 母なしにして
- ・ 防人に 行くは誰が背(せ)と 問ふ人を  
見るがともしさ 物思ひもせず



# ・ 歌の意味を考えて共有してみよう

- ・ この歌を詠んだのはだれか
- ・ この歌を詠んだ人はどんな思いで歌を詠んだのか
- ・ 共感できるか、できないか
- ・ この歌はなぜ・どのように『万葉集』に収録されたのだろうか

# まとめ

- 『万葉集』は一文字一文字に漢字があてられている。
- 『万葉集』は幅広い年代と身分の人の和歌が収められた和歌集である。
- 特に防人歌は庶民階級の人々の和歌であり、彼らの悲痛な想いが伝わってくるものである。
- 今から1200年前に詠まれた和歌であっても、非常に現実的なものもあり、現代の私たちがよんでも共感できる作品もある。